

(西暦) 2013年 5月 18日

緊急入院ならびに予定手術入院で GICU に入室される患者さんの 診療情報を用いた臨床研究に対するご協力をお願い

研究責任者 所属 麻酔学教室 職名 教授
氏名 森崎 浩

実施責任者 所属 看護部 職名 看護師
氏名 河原 賢治
連絡先電話番号 03-3353-1240

このたび当院では、上記の患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。**本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、河原賢治までご連絡をお願いします。**

1 対象となる方

西暦 2012 年 4 月より 2015 年 3 月までの間に、緊急入院もしくは、予定手術入院で GICU に入室され、72 時間以上の在室が見込まれる患者さん。

2 研究課題名

GICU における急性期患者への下肢抵抗運動に重点をおいた急性期リハビリテーションの効果の検証

3 研究実施機関

慶應義塾大学病院 麻酔学教室

慶應義塾大学病院 看護部

4 本研究の意義、目的、方法

目的：患者さんは術後の安静制限が続くことで廃用症候群の 1 つである廃用性筋萎縮による筋力低下が進行する症例が多い。過剰な安静制限に伴う廃用症候群の進行はその後の患者さんの回復過程を遅延させる因子として大きく関与してくる。GICU では現在導入されている ARH プログラムに則り、急性期患者さんの下肢筋群に重点的に下肢抵抗運動を実施することで、患者さんの下肢筋群の廃用性筋萎縮を最小限に防ぐための取り組みを行っている。本研究ではそれにより早期離床が促され、患者さんの回復過程（離床までの日数、歩行開始までの日数、リハビリ施設への転院までの日数な

ど)の促進と在院日数の短縮が得られるかどうかを診療記録から追跡し、その効果を検証することを目的とする。

方法:現在GICUに導入されているARHプログラムの効果を検証するために、診療記録を用いて患者情報を収集する。得られたアウトカムの指標(歩行開始までの日数、筋量の変化、在院日数)から統計解析する。それによりARHプログラムの内容で下肢抵抗運動の有無やその頻度の違いが患者の回復過程や予後にどのように影響してくるかその効果を検証する。

5 協力をお願いする内容

対象となる患者さんにはこれまで通り急性期リハビリテーションプログラムに則り重点的に下肢抵抗運動を行ってまいります。また72時間毎に通常の診療行為の一環としての筋径測定をさせていただきます。

6 本研究の実施期間

西暦 2013年3月1日～2015年3月30日(予定)

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報(住所、電話番号など)は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ(連結不可能匿名化データ)として使用します。
- 3) 連結不可能匿名化データは本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に完全に抹消します。
- 4) なお連結不可能匿名化データは当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

氏名:河原賢治

所属:看護部

連絡先:03-3353-1240

以上